

テーマ①「非人道的だとわかっている核兵器がなぜなくなるのか」  
グループA（川崎高等学校）

討論結果

○客観的な視点

- ・メリットがあるから  
→諸問題を解決する外交のカードになる  
近隣諸国への影響力行使  
核抑止力
- ・もしなくそうとしても、疑心暗鬼になって堂々巡り

○主観的な視点

- ・私たちにもなくなる原因がある  
→他人事として考えている  
脅威を知らない

テーマ①「非人道的だとわかっている核兵器がなぜなくならないのか」  
グループB（はるひ野中学校）

討論結果

打たないだろうという前提 打たなければ大丈夫だと  
思っている

リスクを考えられていない

国と国との関係

核に守られている国が存在する

**核兵器 = 強いという印象を持っている**

## テーマ①「非人道的だとわかっている核兵器がなぜなくならないのか」 グループC（東橘中学校）

### 討論結果

- ・身の安全を守るため
- ・強さの証明 力はあるけれど心は弱い(心配)
- ・北朝鮮やロシアへの警戒(核持ってる自分たちしか止められない)
- ・安心感 持っているとう安心 薬みたいなもの
- ・大統領一人vs数多の人種,人間 というプレッシャー
- ・日本もアメリカの核で守られている(抑止力)
- ・守るためのものが凶器となるということを忘れている(欲が変える)
- ・権力ある人と庶民の差が激しい 自分のことだけ考える
- ・脅威を忘れることが一番恐ろしいこと
- ・保有国は被爆経験なし 被害や苦しみを知らない 置き換えられない
- ・アウシュビッツ 習ったけど数字しか知らない 思い入れがない
- ・作っている人も被害をわからない 経験者と知らない人だと感覚が違う

## テーマ①「非人道的だとわかっている核兵器がなぜなくならないのか」 グループD（宮前平中学校）

### 討論結果

自分を守るため  
核がないと安心できない  
核に依存してる  
核が自分を守ると信じてる  
脅しの材料  
他国と信頼関係が築けてない  
処分ができない、めんどくさい  
9か国以外で条約を決めたのが問題  
核を持っていたほうがいいという意見  
秘密で持ってる  
核でお金を稼いでる  
持ってる国は恥だと思ってない  
考え方の違い

**核が自国を防衛できると  
いう考え方があるから**

## テーマ②「核軍縮・廃絶に向けて進むためには私たちは何をすべきか」 グループA（川崎高等学校）

### 討論結果

#### ○被爆国である日本としての「私たち」

- ・今の日本政府の動きが鈍い→条約国会議に参加すべき
- ・民主主義→国民が変われば国が変わる
- ・戦争の悲惨さを語り継ぐ、核について考える機会を作ること

#### ○世界の常識を変える

- ・私たち自身が変わえようと思って行動すれば変えられる
- ・世界は変わるということを知る
- ・核兵器製造企業への投融資禁止→関係のないように思えるところからも変えていける
- ・根本的な問題解決

テーマ②「核軍縮・廃絶に向けて進むためには私たちは何をすべきか」  
グループB（はるひ野中学校）

討論結果

**「私たち」と言える人の輪を広げる**

私たち→核軍縮・廃絶しようといえる人を増やす  
SNSをさらに活用→若い世代に広める

**広がれば核兵器を廃絶せざるを得ない状況になる**

## テーマ②「核軍縮・廃絶に向けて進むためには私たちは何をすべきか」 グループC（東橘中学校）

### 討論結果

- ・呼びかけていく 小さいことでも大きいことにつながる
- ・一人一人がとりくむことが大切
- ・大勢の人が恥だと言ったら変わる
- ・作る状況を厳しくする 経済面とか
- ・働いている人がいる→働けなくなった場合を考える 提案をしていく
- ・字だけでなく被爆地の写真や被爆者の思いをSNSで世界へ 心揺さぶる
- ・ショッキングな写真などが教科書にない 載せなきゃいけない
- ・固定概念や意思に「核はダメ」を植え付ける 教育をもっと強く
- ・学んでいる子供が大人に訴えかける、気づかせる SNSで 手軽に
- ・本当に悲惨だったということを伝えていく(教科書がすべてじゃない)
- ・便利だけど失っちゃうこともある 生み出すものに責任を 正しい知識
- ・長期戦の必要有？ 着々といい方向へ 小さなことでも探す→今
- ・核以外のほかの抑止力 やさしいもので代用できない？
- ・抑止力がいけない もっと仲よくしよう 信用しよう 非平和になるよ

## テーマ②「核軍縮・廃絶に向けて進むためには私たちは何をすべきか」 グループD（宮前平中学校）

### 討論結果

事実を知ること

考えて発信していくこと

被爆国として日本が先頭に立っていかなければいけない

→核に守られない

発信していく

平和館などで展示されてる内容を外国でも行う

平和授業をどんな国でも受けられるようにする

核被害を受けた国と協力して発信していく

保有国と討論する

市民の考え方を変えていく

核の被害がどのようなものを世界中に広めていく

- まずは日本で核被害について広めていく  
それから世界中に広めていく
- トップの人たちだけではなく、市民にも広めていく

## 講師（長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授 中村桂子先生）による講評

- 違う考え方を持っている人たちが協力して何かを作り上げていく、これ1つ1つが「平和の実践」である。
- 2分間の発表ではもったいない。発表の中から大事なことを学ばせてもらった。
- 発表された意見について、今は現実的でないかもと受け止めた人もいるかもしれないが、こんなアイデアは実現するわけがない、常識に照らしてあるわけがないといった考え方を打ち破ることが大事。核問題に限らず、新しいことはそういった発想から生まれる。
- たとえば、国際条約に基づく非核兵器地帯というのは、構想が出てきた当初は冷戦時代真っ只中で、実現するわけないと笑われていた。しかし、その後実現し、南半球の広範囲に広がった。
- 今日みたいな場面で話し合ったことは、いずれ実現できる、みなさんにはその力があると信じてほしい。
- 今日の発表では、大人に訴えかけていくという話があったが、大人のみなさんは、「今日は生徒たちが頑張っていたね」で終わらせてはいけない。
- 私たち全員、あらゆる世代が核問題の当事者である。答えがない難しい問いに、皆で知恵を出し合って取り組んでいかなければならないのが今の時代。
- 私たち大人が、中高生、小学生、もっと小さい子どもたちのアイデアから学んでいけることがたくさんある。むしろ大人のほうが型にはめていることがたくさんある。
- お互い学びあう「チーム」だ。みんなで解決していくことを考えていきたい。平和を教える、伝える役割が大人にある、というだけではなく、一緒に考えていく、歩んでいくということ。
- 今日はすごく勇気づけられた。